

## 統合実習研修会「教員と指導者の連携強化をめざして －実習指導の実態と課題から－」の報告

志賀くに子 大高 恵美 新田 純子 吹田夕起子  
酒井 志保 佐藤 美佳 宮堀 真澄 安藤 広子

### Report of the integrated training workshop “aiming at strengthening teachers and leaders – training conditions and challenges”

Kuniko SHIGA, Emi OOTAKA, Junko NITTA, Yukiko SUITA,  
Shiho SAKAI, Mika SATO, Masumi MIYAHORI, Hiroko ANDO

**要旨：** 本学における統合実習指導の実態や課題を解決に導くために研修会を企画・運営したので報告する。研修会では統合実習開始当初からこれまでの指導体制に関する課題と各実習施設の工夫や取り組みについてグループワークをし、情報共有することができた。研修会を終えて、グループ毎のまとめをもとに、研修会担当者らで検討した結果、統合実習の指導体制、臨地実習PBL展開、夜間実習計画・指導、の3点が課題として集約できた。また大学と実習施設の連携強化のために必要な内容として、初めての实習施設で学生が力を発揮できるための学習環境の整備、臨地実習指導者と教員間の実習目標・指導方法・評価方法の共有、学生の心身両面のサポートも含めて教員と指導者の役割の明確化など、指導体制の連携強化の重要点が示唆された。

**キーワード：** 統合実習、指導体制、連携

**Abstract :** Planning workshops to guide in solving challenges and the realities of practice teaching methods at a university were conducted. Since leadership is challenging and the sharing of initiatives and information is important, there was a need to devise a training and work method for each practice of the integration exercise.

The results of each group, based on consultation, training of personnel, training, integrated training in the education system, along with clinical practice PBL deployment, night-time practice planning and guidance, were summarized into three points. These key points were: strengthening leadership, such as clarification of the role of teachers and leaders; including support for shared training goals which can aid students at practice facilities for the first time at a university for practical training necessary to foster a cohesive learning environment; and aiding clinical instructors and teachers, including teaching methods for evaluation of the student's mental condition.

**Key words :** integrated training, education system, cooperation

---

日本赤十字秋田看護大学

Japanese Red Cross Akita College of Nursing

## 1. はじめに

日本赤十字秋田看護大学看護学部（以下、本学）における統合実習（以下、実習）は、専門分野／展開看護学領域に位置づけられており、2単位必修科目である。開学以来、必要に応じてシラバスの内容を修正しながら、東北ブロックの赤十字病院6カ所で実習を展開している。実習指導においては、大学側と施設側の管理者レベルで協議会を設けて検討する機会はあるものの、実質的かつ全体的な指導者レベルでの検討はなされていない。また実習後、各施設においても教員と指導者の間で振り返りの場は設けられているものの、全実習施設合同での検討はされていないのが実情である。そこで今回、より充実した実習指導をするために、実習における教員と指導者との連携に焦点をあてて、各施設における実習指導の実態や課題を明らかにすること、また課題等を解決に導くために研修会を企画した。研修会が開催されたことで、実習開始当初からこれまでの指導体制に関する課題と各実習施設の工夫や取り組みについて情報共有することができた。本稿では本学において初めて行われた実習研修会の実践経過について、成果を含めて報告する。

## 2. 研修会事前準備

- 1) 研修会のテーマやねらいを検討するための資料として、「平成27年度統合実習のまとめ（11月本学看護学部教員会議配付資料）」と「東北ブロック赤十字病院・統合実習総括（平成27年度東北ブロック教育施設・資料施設連絡協議会配付資料）」を用いた。
- 2) 「平成27年度統合実習のまとめ（11月本学看護学部教員会議配付資料）」より、学生の実習目標の達成状況を確認した。平成27年度実習は、看護学部4年生104名を対象に、平成27年7月21日（火）～31日（金）、八戸赤十字病院（5名）、秋田赤十字病院（30名）、盛岡赤十字病院（18名）、仙台赤十字病院（19名）、石巻赤十字病院（22名）、福島赤十字病院（10名）において実施された。各施設における実習病棟は学生数に応じて、2～8病棟、1病棟の学生数は2～6名であった。実習後の成績評価では学生は全員単位認定された。各評価項目の達成度は「専門的志向」、「看護管理」、「看護実践能力」、「対象理解」の順に高かった。大学があげる5つの実習目標の達成状況としては、概ね達成で

きていた。

- 3) 「東北ブロック赤十字病院・統合実習総括（平成27年度東北ブロック教育施設・資料施設連絡協議会配付資料）」では、①実習状況－学習準備、カンファレンス、実習PBL、実習態度等について、②準備・指導計画等、③その他、大学への要望等の3項目についてまとめられていた。
- 4) 筆者らで2)と3)の資料を熟読し「実習の課題」を分析単位として、質的に類似するものを整理した。その結果、実習施設である病院からは、実習内容の評価と展望、計画的な事前準備、スタッフの成長と教育、実習記録の指導と課題、消極的な実習態度、計画的な指導体制整備、体調に配慮した実習方法の改善の7つに集約できた。
- 5) 同様に大学からは、実習記録の指導強化、実習記録の管理、学習内容・指導方法の調整、効果的な学習環境の調整、事故予防と対処の5つに集約できた。
- 6) 筆者らで上記資料から集約できた内容について検討を重ね、研修会のテーマを「教員と指導者の連携強化をめざして－実習指導の実態と課題から－」に設定した。そのねらいを「実習における指導上の課題を明らかにし、教員と指導者の効果的な連携のあり方について検討する」とした。さらに今後の教員と指導者の連携を図るためにどのような方法が望ましいのか、さらに自分自身はどのような実習指導を心がけているかなどについて検討することにした。

## 3. 倫理的配慮

研修会参加者には研修会の主旨および公表することについて口頭および書面を用いて説明し、研修会において発言した内容および書記録等について匿名性の確保に努めた。参加者に関する情報および検討内容の共有は筆者らのみとし、本報告以外の目的では使用しないことを加えて説明し書面にて同意を得た。なお、本報告においては、本学研究倫理審査委員会で審査の結果、研究としての倫理審査には該当しない判断された。

## 4. 研修会の概要

- 1) 平成27年度実習研修会企画内容
  - (1) 日時：平成28年3月4日（金）  
12：00～15：30

- (2) 場所：日本赤十字秋田看護大学152講義室  
 (3) テーマ：「教員と指導者の連携強化をめざして－実習指導の実態と課題から－」  
 (4) ねらい：実習における指導上の課題を明らかにし、教員と指導者の効果的な連携のあり方について検討する。  
 (5) 研修会参加者は病院側14名、大学側14名、
- 合計28名であった。そのため1グループを6～7名で構成した。教員と指導者の構成は、グループ1：教員3名、指導者4名、グループ2：教員3名、指導者4名、グループ3：教員3名、指導者3名、グループ4：教員3名、指導者3名とした。

表1 学生の実習状況

| グループ | 内 容   |
|------|---|
| 1    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携や委員会活動等、多職種連携の場面を見学できるよう意図的にスケジュール調整をしていた。</li> <li>・いろいろな見学場面を見ることと、患者を担当することとのバランスに苦慮したが、年数を経て、調節できてきている。</li> <li>・多くの学習目標、内容が組み込まれている統合実習、それを2週間で学生たちに極力平等に経験できるよう配慮している。</li> <li>・個々の環境で実習にかかる経済的負担が違う。初めて知った。もっと状況を知りたい。</li> </ul>  |
| 2    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・PBLに関して数日で吸収したことを短時間でよくまとめ発表している。自分たちで話し合い進めることができている。</li> <li>・指導側は統合実習を最後の実習だから出せる力を振り絞って行う実習と捉えているが、学生は受け身的な感じで、自分からの意思表示が少ない（初年度の学生は〇〇してみたい、教えてほしいなど意思表示があった）。</li> <li>・主体性に関しては、学生の個人差も大きい。</li> </ul>   |
| 3    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生は2週間という短い期間ではあるが、実習場所に慣れていく適応性はある。スタッフとも良い関係性を築けている。素直で真摯に、聴く耳を持っており、反応がある良い学生である。しかし、個人差がありどう関わっていけばいいか、2週間では難しい。事前にもう少し関わる時間があればよい。</li> <li>・秋田は1年生から実習をしているから、学生の成長の過程がわかると思うが、ほかの病院は学生の状況を把握するのは難しいのではないか。教員も、学生の体調等について把握することがメインになってしまい、学生の実習内容、実習状況についての把握は難しい。</li> <li>・実習記録の様式はかなり簡略化されてきた。以前はかなりの量の記録用紙があったが、同じ内容のものは削減して簡略化した。学生へはオリエンテーションの説明だけではわからないだろうし、実際に書いてみて、どう書いたらよいか戸惑うのだろう。書き始めると、どんどんかけるようになっていく学生も多い。</li> <li>・日替わりの実習がほとんど。継続して受け持つ実習もなかなか難しい。</li> </ul> |
| 4    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生は主体的に目標を考えて実習している。</li> <li>・検査、処置などの事前学習をしており、毎日の振り返りで学びを共有できていた。</li> <li>・5校の実習を受け入れている。秋田の統合実習の内容は、マネジメント、複数受け持ちなど最もボリュームが多いが学生は頑張っていると思う。</li> <li>・自分の意見は言えるが他者の意見に対する応答などディスカッションができない。看護師長が投げかけるなどしている。経験したことを消化しきれないのか？</li> <li>・看護師への質問がない。その時なぜそうしたのか疑問がないのか、積極的に聴く姿勢がないのか。</li> </ul>  |

表2 実習指導における工夫点

| グループ | 内 容   |
|------|---|
| 1    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜勤実習は学習効果・交通の便、学生の体調、ホテルの場所、安全面等、様々な配慮をして学生を迎えている。</li> <li>・夜勤実習は消灯時間前後、交通事情、体調を考慮している。</li> <li>・PBLのテーマは指導者と早めに話しあって早く決まっている。</li> <li>・評価は難しいが、最終日に指導者と学生とで振り返りの時間を設けて、最終評価を行っている（聞いて、初めてわかることもあり、効果的）。</li> <li>・昼食はスタッフと一緒にとっているため、愛着がわき、学生の食事内容について心配する意見やお金を心配する意見もある。</li> </ul>   |
| 2    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習指導者間で情報を共有した（学生がその日どうだったか、何を指導したかなど）。</li> <li>・今までの実習での経験項目などのプロフィールを学生に書いてもらい、いただいている（学生のレディネスがわかる）。</li> <li>・夜勤実習はまとめて帰れるように学生の組み合わせを配慮している。</li> <li>・実習でつくスタッフがなるべく連続してつけるように工夫している。</li> <li>・学生が実習で何をしたいのかを書いた紙を読んで、経験できるように工夫している。</li> <li>・実習指導者間で会議を設けて協議し、疑問点については大学側との協議の場で検討している。</li> </ul>   |
| 3    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜勤実習に関しては、学生の疲労等も考慮して（土日の前日の）金曜日に一斉に行った。宿泊施設の周辺でバスが通っていないため、21時までのスケジュールに変更した。</li> <li>・夜間実習の終了時間はそれぞれの施設で工夫をするようになった。</li> <li>・金曜日に夜勤実習をするのは良いと思った。ほかの大学は夜勤実習の翌日は半日実習にしている。秋田は半日実習がないので、休日前に実習を入れるのが良かった。</li> <li>・学生の夜勤実習に合わせて、スタッフの勤務も調整・工夫した。</li> <li>・経験したことのない援助は自ら申し出るように指導しているが、学生は1度やれば良いという風潮がある。学生自ら申し出ることができず、待ち受け状態である。その一方積極的に自ら申し出ることができる学生もいる。</li> </ul>                 |
| 4    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習記録から多職種連携の学びが不足な点を踏まえ、多職種カンファレンスなど実習計画に取り入れることで、記録にも学びとして反映されていた。</li> <li>・慣れない環境で実習が進めやすいよう考慮し、教員が学生のペアリングを決定している。</li> <li>・PBLのテーマ決定の話し合いの場所（大会議室）を確保し、教員がグループをラウンドすることでもうまくいった。指導者もPBLの学習方法を理解して発表会では助言・フォローできるようになってきている。</li> <li>・夜間実習では、夜間の突発的な忙しさに対応するため変則勤務を組み込むなど学生の指導体制を組んでいる。指導者の看護観をまじえて看護について学生に語る時間を持たせた。学生が看護師の考えを聞いたことが良かったと。指導者にとってもリフレクションとなる良い機会だったと思っている。</li> </ul> |

表3 実習指導における課題

| グループ | 内 容  |
|------|--|
| 1    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜勤で帰りにタクシーを使わない等、安全面で不安。</li> <li>・臨床経験のある学生の評価は難しい。やってきた人にこんな点数はつけられない。やはり評価は難しい。</li> <li>・初日の自己紹介を聞くと学生側のモチベーションと受け入れ側のモチベーションに差がある。</li> </ul>   |
| 2    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持ち複数をもつことの評価が難しいので、記録の方法、内容を細分化して書くこと評価しやすいのではないか。</li> <li>・受け持ち患者の振り返りをする時に、どう考えているのかわかるような記録であればよいのではないか（後から振り返りできるもの）。</li> <li>・初めて行く施設（環境）で力を発揮できるような環境づくり、工夫が必要なのではないか。</li> </ul>  |
| 3    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2週間の中でやることが多い。目標が多岐にわたっている。複数受け持ちというよりも2人と明記してもらった方が、学生の負担も少ないのでは。そのほかにも、目標がたくさんあるので・・・ある学生はもう少し患者さんに関わりたいたいと言ってきたりした。受け持ち患者に関わることと認定看護師の講演を聴くこと、どちらを優先するか調整したこともあった。</li> <li>・臨地実習でこそ、実際の患者を通して学べることがある。以前は、看護過程の展開を考慮して展開しやすい患者を選んでいくこともあった。</li> </ul> |
| 4    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・PBLの文献の準備など、学習環境の整備。大学側で必要最低限の文献を準備するなど検討も必要。</li> </ul>   |

表4 教員と指導者の連携

| グループ | 内 容   |
|------|---|
| 1    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価基準ができて、少しは評価がし易くなった。</li> <li>・各ブロック（病院）で、何をしているのかわからない。情報が入ってこないことが不安だった。</li> <li>・今回、各病院の状況が分かって良かった。</li> </ul>   |
| 2    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の経験（レディネス）や考えがわかるものがあるとよいのではないか。</li> <li>・事前準備、オリエンテーションなどで病院・病棟の特徴がわかるような工夫が必要ではないか。</li> <li>・教員と指導者との情報共有の場を設けて話し合いをしている。継続していくことが大事。</li> <li>・教員が巡回する回数を増やすことが連携ではない。教員、指導者の各々の役割を明確にしていくことが重要である。</li> </ul>   |
| 3    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度から教員の人数が増えたが、回数は増えなかった。最初よりは事前の打ち合わせに行くとか、実習期間中も行くなど工夫をしている。学生の話や施設の話を知ると、もう少し回数を増やす方がよいとは思っている。</li> <li>・困ったことがあってもなくても、様々なメールのやりとりはしている。メールで確認をする必要のない内容もメールをしていく学生もいる。</li> <li>・今日のような機会を設け、具体的な工夫していることを意見交換して気づくことは大きいと思った。継続していくのが良いと思う。</li> <li>・実習内容や実習方法について、病院によってやり方が違うことがわかった。どうしたら学生にとってよいのか考えて指導に生かしていきたい。</li> </ul> |
| 4    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の巡回数は、実習初日、中間日、最終日の3回が大方。学生は教員、指導者に聞きたいことが違うようで、指導者は実習内容や評価の考え方のすり合わせをして確認したい。</li> <li>・実習最終日に評価基準の解釈について確認できると良いのでは。</li> <li>・病院では学生直結の連絡窓口を置いて相談体制を整えているが、教員による学生のメンタル面のフォローを強化してもらいたい。病棟実習開始となる実習2日目の巡回指導など前半の指導強化があると良いのでは。</li> </ul>  |

表5 実習指導における課題と工夫点

|              |   |   |
|--------------|---|---|
|              | 情報共有  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ニーズ・モチベーションに関して、学生と臨地実習指導者とのズレがある。初めての实習施設で学生が力を発揮できるための学習環境の整備、オリエンテーションの工夫が必要。そのためには、臨地実習指導者が、学生のレディネス、統合実習の目標・内容の特徴に関する理解を深める必要がある。</li> <li>・臨地実習指導者と教員の事前打ち合わせ・確認の場の設定が必要。</li> <li>・今回の研修会は情報共有の場となり、大学と実習病院、各病院間の相互理解が深まり、効果的な実習指導につなげていけることが実感できている。研修会の継続が、教員と指導者との連携強化の効果が期待できる。</li> </ul> |
| 指導<br>体<br>制 | 指導方法  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の訪問は事前訪問も入れて3回。指導者側からは、訪問頻度を増やす、訪問日を実習初日と2日目に行い実習前半の指導を強化するなど具体的な要望があった。</li> <li>・担当教員と指導者との連絡・相談方法として、メールの活用についての提案があった。</li> <li>・教員と指導者の役割を明確にすることが重要であり、連携につながる。</li> <li>・指導者間の指導情報〔指導方法や指導した内容〕の共有、学生の学習レディネスの把握、同一指導者による継続した指導等について工夫している。</li> </ul>   |
|              | 実習内容・方法   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2週間の実習期間の実習目標・内容としては多岐にわたり、学生の負担が大きい。初めて経験する複数受け持ちは大変ではあるが、患者との関わりを通しての学びを学生はより希望している。実習目標・内容の精選により学生が主体的に学べる実習構成の検討が必要。</li> <li>・いずれの施設も多職種連携については学習機会を調整しやすいが、学習方法・内容は施設で異なる。多職種や地域との連携について事例提示や説明を行うなど工夫している施設もある。</li> <li>・計画的に実習スケジュールを組むなど工夫している。</li> </ul>                                    |
|              | 評価  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生は、複数受け持ち患者の振り返り・評価が難しい。実習記録の方法について、学生・教員・臨地実習指導者間で共通理解し、統一した指導体制の検討が必要。</li> <li>・学生と指導者が一緒に評価する機会を設ける工夫をしている。</li> <li>・実習評価基準の解釈についても、情報共有の場など工夫が必要。</li> </ul>   |
|              | 実習環境および健康管理   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員による学生の精神面のフォロー体制についての検討が必要。</li> <li>・慣れない実習環境でストレスとならないよう、スタッフから声をかける、休憩を共にするなど良好なコミュニケーションをとる工夫をしている。</li> </ul>  |
|              | 実習PBL   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文献など学習環境の整備が課題。大学側で必要最低限の文献の準備の検討も必要。</li> <li>・実習PBLにおける教員の指導場所の確保や指導者の実習PBLに関する勉強を行うなど、実習PBLの指導について工夫している。</li> </ul>   |
| 夜間実習         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間実習終了後の帰宅方法、宿泊施設的环境など、安全面の不安がある。</li> <li>・夜間実習に合わせ、指導者やスタッフの勤務を調整するなど指導体制について工夫している。</li> <li>・実習施設では、学生の疲労や安全面を考え実習日や実習時間を工夫している。</li> </ul> |   |

- 2) 教員がファシリテーターとなり、研修会のねらいにそってグループワークを進めた。最初に学生の実習および実習指導の実態や指導上の工夫点について情報交換・共有する時間（50分程度）を設けた。各グループで、大凡の内容が共有できた後に、実習指導における課題や教員と指導者の連携について情報交換・共有した（50分程度）。各グループワークの結果は、書記録をもとに質的に類似するものを整理し、「学生の実習状況（表1）」、「実習指導における工夫点（表2）」、「実習指導における課題（表3）」、「教員と指導者の連携（表4）」にまとめた。
- 3) 各グループのまとめをもとに、実習の課題と工夫点について研修会担当者らで検討を重ね、質的に類似するものを整理した。その結果、「指導体制」、「実習PBL」、「夜間実習」についての課題や工夫点が要約できた（表5）。

## 5. 終わりに

東北ブロックの赤十字病院6施設の協力のもとで実施してきた「統合実習」も5年目を迎えた。今回、教員と指導者による実習研修会では、そのねらいを「実習における指導上の課題を明らかにし、教員と指導者との効果的な連携のあり方について検討する」として開催した。開始当初からこれまでの指導体制に関する課題と各施設の工夫や取り組みについて検討し、実習6施設の実態がより詳しく情報共有でき、各施設の抱える課題や指導上、工夫している点が理解できた。

今回の研修会を終えて、統合実習の指導体制、臨地実習PBL展開、夜間実習計画・指導、の3点が課題として集約できた。今回の研修会のまとめの結果から、大学と実習施設の連携強化のために必要な内容として、初めての实習施設で学生が力を発揮できるための学習環境の整備、臨地実習指導者と教員間の実習目標・指導方法・評価方法の共有、学生の心身両面のサポートも含めて教員と指導者の役割の明確化など、指導体制の連携強化の重要点が示唆された。一方で、施設それぞれの具体的な工夫について情報共有できたことは、今後の指導体制の向上に貢献できる研修会であったといえる。

平成28年度においても、実習研修会を企画・運営し、教員と指導者の連携を強化し、学生にとってより学習効果のある実習を目指したい。

## 謝 辞

日本赤十字社東北ブロック医療施設において、統合実習の指導を担当する看護師長はじめ多くの方に研修会に参加していただき、活発な意見交換等、有意義な時間を過ごすことができたことに感謝します。

## 利益相反

本稿において利益相反に該当する事項はありません。

本研究は平成27年度「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学金基金」学長裁量費による研究支援事業である。

## 参考文献

- 伊藤美幸 (2014). 統合実習における看護専門学校と臨床の連携に関する教員と指導者の認識. 名古屋市立大学看護学部紀要, 13, 43-54.
- 厚生労働省 (2011). 看護教育の内容と方法に関する検討会報告書.  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000013l0q-att/2r98520000013l4m.pdf>, 2015年9月8日.
- 小野晴子, 塩見和子, 掛屋純子, 磯本暁子, 柘野浩子, 土井英子. (2013). 臨床実践能力の修得につなげる統合実習の総合評価. 岡山県看護教育研究会誌, 37(1), 16-24.
- 高畑和恵, 佐々木吉子, 井上智子 (2015). 看護学士課程教育における臨地実習指導での大学教員と実習指導者との協働に関する研究. 日本看護学教育学会誌, 25(2), 1-14.
- 富岡幸子, 菖蒲沢幸子 (2015). 看護大学4年次統合実習指導の問題点と解決策. 盛岡赤十字病院紀要, 24(1), 11-17.